



1 南無阿弥陀仏碑
旧高湯村入口に建立 村人・旅人の安全祈願「一切衆生平等利益」



2 下湯共同浴場
足湯も楽しめます



3 霊泉碑
昭和8年茂吉滞在した時の直筆書を昭和40年、碑に建立



4 上湯共同浴場
平成22年改築



5 阿弥陀堂(旧唯法寺)
山形市緑町に寺が移る前の寺



6 最上義光力石
最上義光が持ち上げたと言われる石



7 薬師神社
子育て、病氣平癒、ほけ封じの神



23 大露天風呂
男女5つの浴場 同時に200人が入浴できます



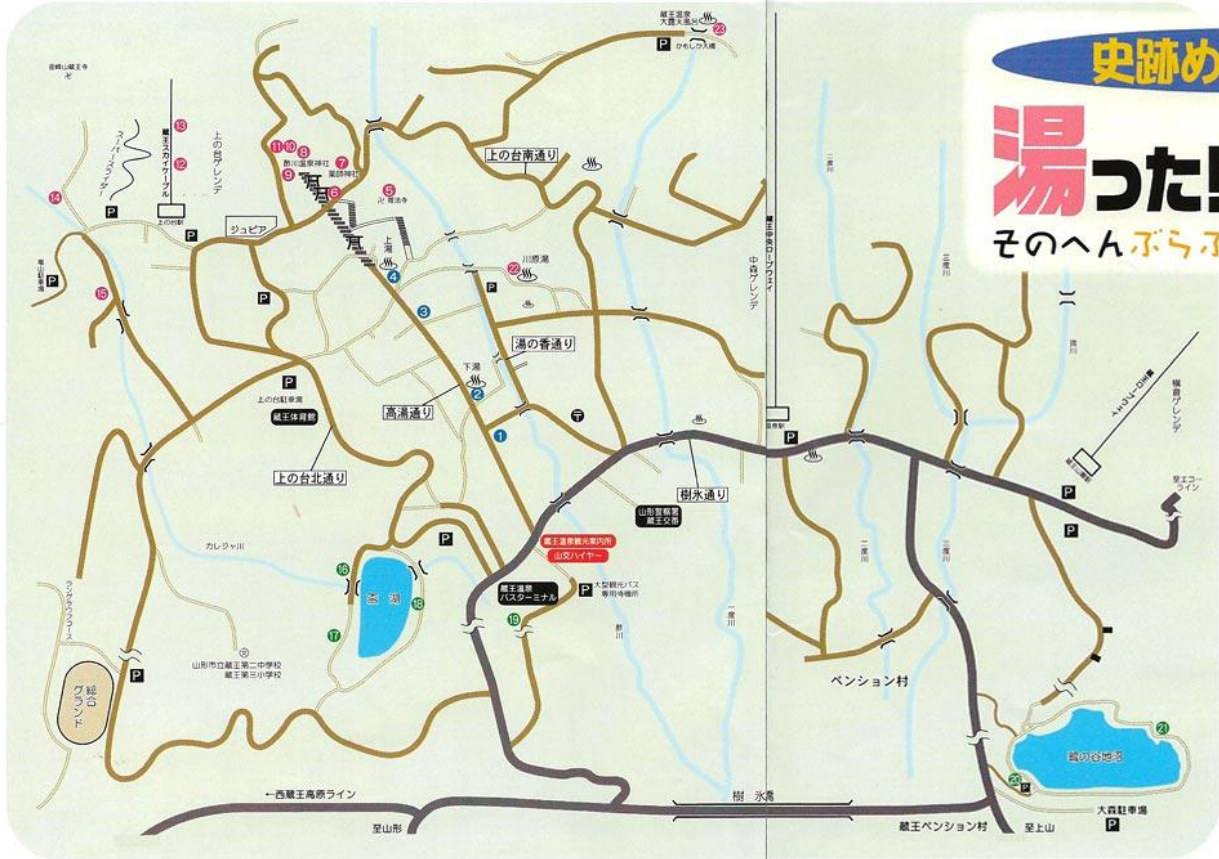
22 川原湯共同浴場
温泉が湯舟の下より自噴



21 鳴の谷地沼の水芭蕉
蔵王の春を感じさせてくれる代表の花 5月上旬頃



20 鳴の谷地沼斎藤茂吉歌碑
「むしがしに 直にい向ふ 岡に上がり 蔵王の山を 目守りて下る」 茂吉
昭和20年 歌集「小園」に載っている歌



8 酢川温泉神社
貞観15年6月26日正五位を授かる 家内安全 縁結びの神



13 スキー滑走像
昭和25年日本観光地百選山岳の部 第1位の30周年記念碑



14 インタースキー記念碑
アジア初の世界スキー教育会議開催記念碑



15 白州次郎 旧別荘(ヒュッパレン)
戦後の危機を乗り越え、新生日本の礎を築いた白州次郎の旧別荘



9 熊野神社石板碑
昭和4年・5年に建立 篠原英太郎題字・渡邊徳太郎撰卒書



11 古峰神社碑
古峰神社碑/明治33年建立



12 上の台茂吉歌碑
昭和25年日本観光地百選山岳の部 第1位の記念碑



19 湯女の石地蔵
享保20年建立され、山辺より奉公に 来ていた湯女を記ったとされる



18 伊藤心水の句碑
「松風の 夢に障らぬ 午寝かな」



17 弘法様
天保12年建立、その後移転された 祠は半郷石正所作



16 水神様
明治33年、盃湖に併設して作られた 灌漑用水に祀られたであろう碑

① 南無阿弥陀仏石碑

旧高湯村入り口に建立されたもの、いまより一〇m位下にあった。村人・旅人の安全を祈願したもので、「一切衆生平等利益」を願ひ初代「孫七」の書

③ 茂吉「霊泉碑」

昭和八年茂吉翁五〇歳若松屋に逗留時に『霊泉延年』と書いた書より霊泉の部分縮小コピーし、先代長右工門氏が昭和六年に建立。現長右工門氏の曾祖母、おわかさんは茂吉翁の養父（青山脳病院の斎藤紀一博士）の姉、おわかさんの長男、平六氏と茂吉翁は同年輩、共に机をならべ勉強した間柄。一六年五月一日の五八歳の時にも若松屋に逗留（二泊）龍山に登りながら一〇首・山頂で九首の句を詠んでいます。山頂には平成一四年九月一日「山の峰 かたみに低くなりゆきて 笹谷峠は其處にあるはや」の木製の碑が建てられました。

⑤ 庵寺

建立時期不明、元は高湯山唯法寺と称し、最上義光の娘（駒姫）の菩提寺、専称時のまわりに三里四方に同宗の寺を集められたとき、庵寺となった。三〇〇有余年前と言われる。現在は親和会の管理となり、会員の理解と協力により荒廃していた庵寺は平成十四年に改修された、工事は（株）たくみ建設・工費二八〇〇万円。改修後、雪害により東側が壊れ、本年修理したが、祭壇・王座部分は未修理。ご本尊の阿弥陀如来は、唯法寺に預かり安置されている。

⑥ 最上義光力石

山形城第十一代城主最上義光は、文武両道に優れた人物とされ、戦国時代の一五六一年一六歳の時父義守に伴われ、僅かの家来と共に湯治（湯元屋旅館・現いごもち湯元屋）に訪れた折、盗賊に襲われましたが首領を打ち取り、最上家の家宝でもある名刀「笹切」を父より与えられた。又、その湯治の中、家来達と力比べで持ち上げた大石と言われたおりで。重量五〇貫・一九〇kg

⑦ 薬師神社（湯旃薬師寺）

氏神は日本全国、いづれの村々にも存在し、住民が共同で祀る共同神で、氏人が之に仕く、そして村が統治されていたもので、いわゆる鎮守で守護神であります。仏教伝来・神仏融合の思想から薬師如来を比叡山より請けられて、神仏合体の氏神として湯旃薬師堂を祀ったと言われております。湯旃の旃とは「土衆を招くよう」とありました。温泉に多くの貴賤の男女を誘致する薬師堂であり、温泉発展の神として祀ったもので、祭礼には法印を呼んで行なわれ、四月八日又は五月八日時には八月八日に例祭が行なわれた。薬師如来像は、昭和三〇年の頃、国立文化財研究所の鑑定の結果、鉄佛（七寸一分）にして鎌倉時代の作、全国で三〇体、本県では三体の一つであることが解った。（武田好吉氏）当初は現在の高見屋と旧柏屋の間、石鳥居の所ありましたが、延宝三年（一六七五年）正徳二年（一七二二年）の二回に渉る温泉の大火に類焼し、元元年（一七二六年）の大火では免れたが、しばしばの大火の度に奉行所により、再建されていたが、寛保末年（一七四三年）台風で大破したのを機に薬師堂の別当行蔵院より奉行所に再建を申請した、当時の寺社奉行は堀田相讓守で前場所では危険だと言うことで、階段を延長し、現在の道路部分に再建した。道路建設（昭和三六年）に伴い脇に移転し、その後、北向きになつていったものを西向きに直し、又、平成三年、現在の所に移転した。費用五六二万円

⑥ 酢川温泉神社

三代実録、我が国の六国史の中の清和天皇の条に「貞観一五年六月二十六日（八七三年）出羽の国酢川温泉神社に従五位を授くとある、大國主神・少名彦名神・須佐之男命・迎具土神の四神が祀られている。古くから農工商の殖産興行の神・家内安全・厄難消除そして縁結びの神として尊崇驚き神社であります。

⑨ 熊野神社石碑

当社は、奥羽山脈中の霊峰蔵王山熊野岳に鎮座まし祭神須佐之男命を奉祀するに三代実録貞観一五年六月

修下に見在出羽国従五位下須川温泉神社の離宮にして神仏無邊是を以て徳川三代将軍家光先規に任せ朱印地を寄進せるな爾後歴代の尊崇益深く遠近の緒者亦絶ゆる莫し一二月一日行かせられたる御即位大禮の盛典を記念し奉る為同山峰に福地とし社殿を再建し以て神慮安んず蓋敬部崇祖国家安全祈願の赤誠に出つと云爾
昭和四年七月社殿竣工八月鑑遷座 五年七月建立
文部省普通事務局前山形県知事従四位勲三等 藤原英太郎 題字
山形商業学校校長従五位勲五等 渡邊徳太郎 遷卒書

⑩ 山の神祠

寛延三年（一七五一年）桃園天皇時代の建立、現在一六人の講中人がいる。神社前の道路付近にあったものを現在地に移設した。

⑪ 古峰神社

明治三年建立、平成三年移設した。元は今の薬師神社から道路を挟んで少し低い所にある広場にあった。

⑫ 観光地百選第一位の碑

昭和二五年毎日新聞が主催した日本観光地百選の山岳部第一位を喜んで茂吉が詠んだものを新聞に発表、それを記念の石碑にした。万国人の人来り見よ雲はる蔵王の山のその全きけを」とどろける火はをさまりてみちのくの蔵王の山はさやかに聳ゆる」つきかけ、昭和二五年

⑬ スキー滑走像

観光地百選第一位から三〇年（昭和五五年）記念式典を蔵王体育館で開催しその席上「でん六（株）社長・鈴木伝六氏」から記念のスキー滑走像の目録がおくられました。完成は二年後の昭和五七年の秋

⑭ インタースキー記念碑

キー指導者会議・第一回インタースキーを記念し建立した。五四年一月二日から六日間の日程で行なわれ、海外から一〇〇〇人・国内から八〇〇〇人・運営関係者一〇〇〇人・観客二〇〇〇〇人を超える大会になりました。開会式には皇太子殿下・同妃殿下・三笠宮殿下が行啓され、アジア初のインタースキー開催地「蔵王」は世界的有名なスキー場となりました。

⑮ 白州次郎旧別荘（ヒュッテヤレン）

日本昭和史上・敗戦後の危機を乗り越え、新生日本の礎を築いた、英国仕込みの「プリンシプル（筋を通す）な男」白州次郎氏がこよなく愛した蔵王に、スキー山荘として、東北電力会長時代（一九五二～一九五九）建築されました。この山荘は、日本語の「やれん（やっついたられないの意味）」とかけ、白州次郎氏によって、スィス風ドイツ語のつもりでヤレンと命名されました。

⑯ 水神様

明治三年、盃湖水利組合を設立し、噴火口であろう、盃湖に併設し造った灌漑用水の溜池、完成時に祀ったものと思われる。昭和二六年七月二〇日設立した龍湖土地改良区が引き継いだ。

⑰ 弘法様（祠）（丸七所有）

天保一二年（一八四一年）三月何らかの理由（是當弘法大師の為）により、長助他、村の若衆により六月吉日建立された、パークホテルの裏庭（水室付近）にあったが売却される為、買主が不要のことから現在地に移った、見守る人もいないことから、丸七さんが所有者となり守っている。祠は半郷右正民吉作

⑱ 伊藤心水句碑

本名、伊藤民彌（昭和十年七九歳で没、おみや旅館の出身、民彌さんの母は緑屋商店の出、師範学校を出て、高湯学校に勤務、第四代（明治一四一五）六代（同二二年一八九）首座訓導、画家の朝一圭鳳や歌の弟子により昭和五年建立、『松風の 夢に障らぬ 午寝かな』蔵王の夏、牛ノ木の下でうたたねをしていると心地よい風が頬を通り過ぎていくさまを詠んだもの。

⑲ 湯女を祀った石地藏

堀田家五代目当主正亮（まさすけ）の経済活性化政策により堀田村高湯と改称され、高湯温泉は繁盛してくるが、天明の飢饉（一七八三年「天命三年」）農村部において多くの餓死者が出て食べる為、生活を助ける為に身売をする娘たちが出て、当時の高湯温泉に年季奉公として来る者が多くなり、酌取女と呼ばれる湯女が増え温泉はさらに繁盛した。斎藤久雄（藤左衛門）の古文書解析によると所帯数四九軒のうち一四軒が置屋を営み二八〇人の湯女が暮らしていたとされる。内には許されぬ恋仲となり心中を図った悲しい出来事もあった、そんな夫と共に死んだ湯女を哀れみ、その妻が祀ったと言われる石地藏（享保二〇年建立）がある。若野と言う名が刻まれていることから、庄屋の喜から奉公に来た湯女であつたろうと推測される。

⑳ 鳴の谷地 茂吉歌碑

昭和二〇年茂吉が郷里の金瓶に疎開生活中に詠んだもの。「ひむがしに 直に向ふ岡に上がり蔵王の山を 目守りて下る」昭和四四年山形新聞社・山形放送により建立

蔵王温泉（旧名・高湯温泉）の由来

西暦一〇〇年頃日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が蝦夷征伐に來た際、武將の吉備多賀由（キビタガユ）に毒矢が当たりに苦しんでいた時に、温泉を発見し浴させたところ、すっかり全快したという。感謝の気持ちを含めて自分の名を残したが、高湯（多賀由）温泉の始まりと言われ、昭和二五年に蔵王山が観光地百選山岳の部で二位に選ばれたのを記念して、蔵王温泉と名を改めるまで千年以上に渡り高湯温泉として親しまれてきました。

温泉街史跡めぐりモデルコース
（全行程約3km・1.5時間）

